

## 年 表

## 1 線区別沿革の概要

## 〔奥羽本線〕

明治25. 6.21	鉄道敷設法(法律第4号)公布第1期線として奥羽線編入(同法第7条)
8.	調査開始(同年12月完了)建設予算1,585万7,658円 (明治26年以降12ヶ年間の継続費として。のちに増額され、期間も延長される。)
32. 5.15	奥羽南線福島～米沢間開通(27. 2 着工。当時は福島～湯沢を奥羽南線、湯沢～青森を奥羽北線と呼称。)(板谷、峠、関根、米沢の各駅開設) 福島～米沢間4往復運行(所要時間上り2時間36分、下り2時間35分)
33. 4.21	奥羽南線 米沢～赤湯間開通(32.4着工)(糠ノ目、赤湯の各駅開設)
34. 2.15	〃 赤湯～上ノ山間開通( 〃 )(上ノ山駅開設)
4.11	〃 上ノ山～山形間開通( 〃 )(山形駅開設)
8.23	〃 山形～楯岡間開通( 〃 )(天童、神町、楯岡の各駅開設)
10.21	〃 楯岡～大石田間開通( 〃 )(大石田駅開設)
35. 7.21	〃 大石田～舟形間開通( 〃 )(舟形駅開設)
11. 1	〃 漆山駅開設
36. 6.11	〃 舟形～新庄間開通(33.2着工)(新庄駅開設)
11. 3	〃 中川駅開設
37.10.21	〃 新庄～院内間開通(33.2[新庄～大滝]、33.5[大滝～湯沢]着工) (新町(現真室川)、釜淵、及位の各駅開設)
38. 9.14	奥羽南線湯沢～奥羽北線横手間開通により奥羽線と改称し、全線開通 (最終建設費2,750万7,081円:全線にわたり軌条30kg、9.1m:枕木12丁)
39. 4.16	福島～青森間に直通旅客列車運行(1往復、所要時間上り17時間16分、下り16時間58分) 「鉄道国有法」(法律第17号39.3.31公布)に基づき、日本鉄道(株)青森～上野間(東北線)国有となる(39.11.1)。
12.25	大沢駅開設
40. 5.19	上野～青森間に直通旅客列車運行(1往復:44. 9.15 2往復、大正 8.10. 1 3往復)
44.12. 5	金井(現蔵王)、東根の各駅開設
大正 2. 7.15	泉田駅開設
10. 1	一等車連結廃止
5. 9.20	新町駅を「真室川駅」と改称
12. 1	芦沢駅開設
6.12.20	置賜駅開設
7.11.10	袖崎駅開設
9. 3.	上野～青森間直通旅客列車に食堂車連結
10. 7.20	北山形駅開設
12.15	羽前豊里駅開設
11. 3.15	上野～青森間に急行列車運行(二等寝台車、食堂車連結)
昭和 8. 9.25	上野～秋田間の急行列車に三等寝台車連結
10.17	羽前千歳駅開設
16. 9.20	大滝駅開設 「日本国有鉄道法」(昭和23年12月20日、法律第256号)に基づく公共企業体として 「日本国有鉄道」発足(24. 6. 1)

昭和24. 4.24	福島～米沢間電化(直流)
9. 1	赤岩～大沢間4駅スイッチバック通過線工事完了
25.12.20	上野～秋田間夜行急行列車を「鳥海」と命名(30. 7. 1 特別二等車連結、31. 4.25 三等寝台車連結、40.10. 1 羽越線運行の列車名となる。)
26. 3. 1	金井駅を「蔵王駅」と改称
27. 3. 5	北上ノ山、南出羽、高嶺の各駅開通(停留所)
11.15	羽前中山駅開設
29.12. 1	乱川、蟹沢の各駅開設
30.10. 1	福島～新庄間に快速列車新設
31.11.19	上野～秋田間に急行「鳥海」(昼行)を運行(32.10. 1 食堂車連結) 急行「鳥海」(夜行)を青森に延長して、「津軽」と改称(1往復:40.10. 1 1往復増発、後に減便し、平 5.12. 1 季節列車化)
34. 6. 1	米沢～秋田間にDF50運行開始(4両配置、4往復)
9.22	米沢～新庄間にDD4両投入
12. 1	米沢(仙台)～酒田間に臨時特急「もがみ」運行開始 (1往復:35. 3. 1 定期化後に羽前本荘まで運行) 米沢・仙台～秋田間(陸羽東線経由)に準急「たざわ」運行開始 (1往復: 35. 3. 1 定期化、37. 2. 20 仙台～秋田～青森を1往復増発、また「千秋」と改称)
35. 6. 1	上野～山形間に急行「蔵王」運行開始 (1往復: 38.10. 1 2往復に増発し、列車名を「ざおう」に変更、55.10. 1 3往復中1往復廃止) 上野～新庄間に不定期準急「出羽」運行開始(1往復:36.10. 1 定期急行化、38.10. 1 上野～酒田間運行となり、57.11.15 羽越線運行の特急列車名となる)
11. 1	山形～羽前千歳(山寺)間電化(直流) 山形(仙台)～酒田間に特急「月山」運行開始(1往復:43.10. 1 仙台～山形～酒田(鶴岡)間1往復増発、47.10. 2 山形～温海(後に鼠ヶ関)間に1往復増発、仙台～山形間廃止) 仙台～新潟間に準急「あさひ」運行開始 (1往復: 37. 7.15、1往復増発、57年より「べにばな」と改称、平成 3. 8.27乗り入れ廃止)
12.20	鳥越～新庄間増設線路を陸羽東線として使用開始 北大石田駅開設(停留所)
36.10. 1	[全国白紙ダイヤ改正] 上野～秋田間にDC特急「つばさ」運行開始(1往復、所要時間8時間30分:38. 4. 1 6両編成から7両編成に増結、40.10. 1 1往復増発、所要時間7時間49分) 上野～秋田間に急行「おが」運行開始(1往復:後に1往復増発、後に減便し60. 3.14廃止)
38. 3. 1	米沢～秋田間連鎖閉塞(トークンレス)完成
9.27	北赤湯信号場設置
10. 1	新庄～山形間に準急「むらやま」運行開始
39.10. 1	[全国白紙ダイヤ改正] 上野～山形間にDC特急「やまばと」運行開始 (1往復、急行「ざおう」のうち1往復を格上げ、所要時間5時間22分)
10. 1	[東海道新幹線(東京～新大阪)開通]
40. 5.19	最初のコンテナ輸送山形駅発54列車運行開始
41. 2. 1	複線化工事起工式施行 [100キロメートル以上の準急を急行に格上げ(41. 3.25)]
42. 1.11	金谷信号場設置
7.19	山形民衆駅営業開始
8. 1	〃 全面開業
12. 6	羽前千歳～及位間自動信号化工事完成
43. 7.25	赤湯～北赤湯間複線化開通
9. 8	山形～北山形間複線化開通

昭和43. 9. 8	山形～羽前千歳間交流電化
9.22	大沢～関根間複線化開通
	福島～米沢間交流電化
	福島～羽前千歳間自動信号化
9.24	上ノ山～蔵王間複線化開通
	米沢～山形間交流電化
9.25	鳥越信号場設置
9.29	及位～院内間複線化開通
10. 1	特急「やまばと」を電車化し、1往復増発 (2往復となる。所要時間4時間35分、9両編成、45.10. 1 12両編成)
45. 6.30	赤岩～板谷間複線化開通
7. 1	上野～秋田間に臨時寝台特急「あけぼの」運行開始 (1往復: 45.10. 1 定期化所要時間12時間34分)
10. 1	羽前中山、袖崎、泉田の各駅が停留所化、羽前豊里駅が簡易委託駅化
	山形～秋田間に急行「こまくさ」運行開始(1往復:53.10. 2 山形～青森間に延長)
12.20	山形駅旅行センター開業
46. 9.17	羽前中山～上ノ山間複線化開通
9.20	板谷～大沢間複線化開通
12.10	蔵王～山形間複線化開通
47. 3.15	特急「やまばと」1往復増発(3往復となる。所要時間4時間25分)
12.12	奥羽本線電化複線化計画決定
48. 1.24	〃 電化起工式(新庄駅)
4.12	集中豪雨により芦沢～舟形間不通(4.28 開通)
10. 1	上野～秋田間寝台特急「あけぼの」1往復増発 (上野～秋田1往復、上野～青森1往復となる。57.11上野～秋田1往復増発)
49.10.11	米沢～新庄間CTC使用開始
12.10	散水式ポイント融雪装置設置(置賜、中川、芦沢)
50. 2. 1	東根駅が旅客駅化(貨物取扱廃止)
2. 3	置賜駅が停留所化
2. 7	中川駅が停留所化
8. 6	集中豪雨により真室川～院内間不通(8.13 開通) (大滝駅で土砂崩れのため津軽2号1両転覆、死傷者12名)
9. 5	及位～院内間複線化開通
9.10	舟形駅が旅客駅化(貨物取扱廃止)
9.17	芦沢～舟形間複線化開通
10.13	羽前千歳～秋田間交流電化(全線電化完成)
11.25	新庄～秋田間CTC使用開始 特急「つばさ」電車化(2往復、所要時間7時間35分)
51. 3. 1	特急「やまばと」に自由席(3両)新設
4. 1	釜淵、及位の各駅が旅客駅化(貨物取扱廃止)
8. 1	楯岡駅が旅客駅化(貨物取扱廃止)、及位駅が簡易委託駅化、釜淵、大滝の各駅が停留所化
53. 2. 5	舟形駅が停留所化
10. 2	特急「やまばと」、特急「つばさ」各3往復L特急化
55. 2. 7	集中豪雨により大沢～関根間不通
5.21	北山形～羽前千歳間複線化工事着工
9.20	赤湯、糠ノ目駅が旅客化(貨物取扱廃止)
56.10.15	大石田駅が業務委託駅化
57. 3.20	天童駅が旅客駅化(貨物取扱廃止)、真室川駅が業務委託駅化 〔東北新幹線盛岡～大宮間開業 57. 6.23〕

昭和57. 7. 1	特急「やまばと」、特急「つばさ」食堂車廃止 〔上越新幹線新潟～大宮間開業 57.11.15〕
11.15	新幹線接続特急体系整備(ダイヤ改正)
58. 2.10	糠ノ目駅が簡易委託駅化
10. 1	東根駅が業務委託駅化
59. 1. 4	板谷駅が旅客駅化(貨物取扱廃止)
2. 1	貨物列車大幅削減、ヤードを廃止し、拠点間直行輸送体制へ転換 北山形、神町の各駅が旅客駅化(貨物取扱廃止)
12. 1	福島～米沢間CTC使用開始 板谷、峠、大沢、関根の各駅が停留所化 〔東北・上越両新幹線上野開業 60. 3.14〕
60. 3.14	新幹線接続特急体系整備(ダイヤ改正) 昼行特急列車名を「つばさ」に統一(新幹線接続8往復、うち1往復のみ上野直通)、急行「ざおう」 2往復を特急化(「つばさ」)
8. 1	板谷、関根の各駅が簡易委託駅化
61. 4. 1	中川駅舎改築 東根、真室川の各駅が簡易委託駅化
7. 3	北山形～羽前千歳間複線化開通
11. 1	新幹線接続特急体系整備(ダイヤ改正) 特急「つばさ」2往復増発(うち1往復は季節列車、新幹線接続は10往復へ増加) 山形～上野間の最短所要時間2時間台の実現(2時間58分) 新庄、米沢の各駅が旅客駅化(貨物取扱廃止)、羽前千歳駅が簡易委託駅化
62. 8. 1	板谷、関根の各駅が停留所化
63. 3.13	国鉄分割民営化後、初のダイヤ改正 特急「つばさ」季節列車1往復が定期列車化 上野～秋田間寝台特急「あけぼの」1往復廃止(上野～青森間2往復のみとなる。) 米沢～山形間に通勤通学快速「あずま」下り1本新設 新庄～山形間に快速「もがみがわ」上り1本新設
4. 1	大石田駅が旅客駅化
平成元. 3.11	特急「つばさ」1往復増発(新幹線接続は11往復へ増加) 米沢～山形間に快速「あずま」上り1本新設
2. 7.30	山形～福島間の愛称が「山形新幹線」と決まる。
9. 1	山形新幹線改軌(2. 9.18開始)に伴い、山形～福島間が単線運転になり、特急「つばさ」は7往復のみとなる。 夜行特急「あけぼの」が1往復のみとなり、陸羽東線経由となる。 急行「津軽」が仙山線経由となる。 山形～新庄間に快速1往復運行開始
3. 3.16	大沢、峠、板谷、赤岩駅のスイッチバック廃止 糠ノ目駅を「高島駅」と改称 夜行特急「あけぼの」にA、B個室が新設 〔3. 6.20東北、上越新幹線東京駅開業〕
8.27	山形新幹線工事に伴う区間バス代行輸送が始まる。(11月4日終了) 特急「つばさ」が仙山線経由となり、5往復のみとなる。 山形～新庄間に快速2往復増発
11. 5	山形～福島間の標準軌単線完成に伴い、標準軌間用新型電車が運行開始する。 快速列車名は「快速ざおう」
4. 5. 7	福島で山形新幹線と東北新幹線のレールが連結される。
7. 1	山形新幹線が開業し、「つばさ」が山形～東京間を14往復の直通運転を開始する。(最短所要時間2時間27分)

平成 4. 7. 1	初期トラブル発生するも、まもなく落ち着く。 上ノ山駅を「かみのやま温泉駅」、北上ノ山駅を「茂吉記念館前駅」と改称
5.12. 1	山形～秋田間のほとんどの普通列車が新型電車になり、到達時分等が短縮される。 仙台～新庄間に2往復の直通(スルー)列車新設 急行「津軽」(上野～青森間)が定期運行から季節運行となる。
6.12. 3	山形新幹線「つばさ」(山形～東京間)が14往復から15往復に増強される。 山形～院内間で、日中時間帯を中心に普通列車がワンマン運転化される。
7.12. 1	山形新幹線「つばさ」の普通指定車両が1両増結して1編成7両となり、輸送力が大きく向上する。
9. 3.22	秋田新幹線「こまち」開業に伴い、特急「こまくさ」の山形～秋田間がこれまでの4往復から2往復に、山形～横手間が1往復から3往復に運転区間が変更となる。 (山形～新庄間4往復は変わらず) 県立中央病院等の移転を見越して、これまで通過となっている列車(上下5本)が南出羽駅に停車となる。 夜行寝台特急「あけぼの」(奥羽本線経由)と同「鳥海」(羽越・上越線経由)が羽越・上越線経由の「あけぼの」に統合される。
5. 1	山形新幹線新庄延伸工事着工
10. 1	快速「ざおう」1往復を普通列車化
10. 3.14	快速「ざおう」を廃止し、各駅列車化
12. 8	大宮・福島間ノンストップつばさ4往復運行される。 つばさの曜日指定の臨時列車が運行される。 山形・米沢間上り快速列車を廃止
10.27	新庄延伸工事に伴う山形～羽前千歳間単線運転開始
11. 3.11	特急「こまくさ」廃止
3.12	新庄延伸工事に伴うバス代行開始 (ラッシュ時天童～新庄間、それ以外北山形～新庄間バス代行) 新庄～秋田間 快速「こまくさ」2.5往復 新庄～横手間 快速「こまくさ」2.5往復
7. 1	新庄延伸工事に伴うバス代行本格化 (終日北山形～新庄間バス代行)
12. 4	山形新幹線新庄延伸開業 山形・新庄間1往復、東京・新庄間8往復運転。最短3時間5分。 楯岡駅を「村山駅」へ改称、蟹沢駅を廃止し、「さくらんぼ東根駅」新設
12.12. 2	「つばさ」停車駅拡大(上野22回→24回、大宮28回→29回、郡山23回→24回) 在来線(山形～米沢間)の土曜日・休日運転の普通列車(1往復)を定期化 新庄～秋田間にセミクロス化した701系車両の導入 (最短所要時間山形～東京:2時間29分 新庄～東京:3時間7分)
13. 4. 1	神町駅 業務委託駅化
12. 1	「つばさ」停車駅拡大(上野24回→25回、米沢26回→28回、高島10回→12回)
14. 4. 1	東根駅 無人化
6. 1	山形新幹線(福島～新庄間)の降雨に伴う運転規制値改正
12. 1	「つばさ」が、東京発36分、東京着24分の等時隔ダイヤ化(一部の列車を除く。)東北新幹線内の「つばさ」停車駅が、基本的に福島、郡山、宇都宮、大宮、上野となる(速達型などの一部の列車を除く)。 快速列車名の「こまくさ」廃止 土休日ダイヤの導入 (最短所要時間 山形～東京:2時間30分 新庄～東京:3時間14分)
15.10. 1	「つばさ」停車駅拡大(米沢駅に全列車停車)
16. 3.13	「つばさ」運転区間の変更(1本:山形始発を新庄駅始発に) 「つばさ」停車駅の拡大(赤湯駅・かみのやま温泉駅24回→26回)

平成16. 3.13	新庄～秋田間の快速列車を普通列車化
4. 1	釜淵駅・大滝駅・及位駅無人化
17. 4. 1	漆山駅無人化
12.10	「つばさ」山形～東京間を1往復増発(15往復→16往復) 「つばさ」山形～新庄間(ノンストップ)1本が山形以北各駅停車
18. 4. 1	神町駅無人化
19. 2.28	羽前豊里駅無人化
7. 1	山形新幹線開業15周年
21.12. 5	山形新幹線新庄延伸10周年記念「SLつばさ10周年号」運転
22. 1.23	山形新幹線新庄延伸10周年記念「食べっしやつばさ号」運転
24. 3.17	「つばさ」一部列車の最高速度が275km/hに向上 (最速所要時間 山形～東京 2時間29分、新庄～東京 3時間14分)
7. 1	山形新幹線開業20周年
9.29	「つばさ」の全ての運行で最高速度275km/h(最短所要時間 山形～東京 2時間26分、新庄～東京 3時間11分)
26. 4. 1	山形駅でSuica利用開始
4.19	山形新幹線の外装変更(～平成28年10月)
7.19	新幹線初のリゾート列車「とれいゆ つばさ」運行開始
27. 3.14	天童南駅開業
4. 1	高畠駅、さくらんぼ東根駅、大石田駅が業務委託駅化
10. 1	かみのやま温泉駅、蔵王駅が業務委託駅化
28. 4. 1	村山駅が業務委託駅化
10.29	つばさ号シルバー色ラストラン。全車両が新デザインに統一。
11.26	北山形駅リニューアル完成
29. 7. 1	山形新幹線開業25周年
30. 9. 1	赤湯駅、天童駅が業務委託駅化
31. 4. 6	とれいゆつばさ車内リニューアル
令和元. 7.20	とれいゆつばさ5周年
12. 4	山形新幹線・新庄延伸20周年
2.12.15	山形新幹線における携帯電話不感区間解消

[羽越本線]

明治43. 3.14	鉄道敷設法(明治25年6月21日、法律第4号)第7条が改訂(第1期線に編入)され、鉄道敷設法改正法律(明治43年3月14日、法律第22号)として公布される。これにより新庄線(古川～新庄～酒田)が、第1期線に導入される。(現在の陸羽西線を酒田線、陸羽東線を陸羽線、全部を通して新庄線と呼称された。)
大正 3. 9.20	余目駅開設
12.24	新庄線中酒田線余目～酒田間開通 (これにより新庄～酒田間全通、44. 1 着工、砂越、酒田の各駅開設)
4. 4.25	新庄線中酒田線酒田～最上川(現酒田港)間(貨物線)開通(最上川貨物駅開設)
6.21	鉄道敷設法第7条が改訂され、法律第27号として公布される。これにより、羽越線(新発田～秋田)第1期線に編入される。羽越線中象潟～鼠ヶ関間を羽越中線とする。
7. 9.21	羽越中線中鶴岡線余目～鶴岡間開通(藤島、鶴岡の各駅開設、陸羽西線の一部として営業開始:大正 8. 7. 6 鶴岡駅移転)
8.12. 5	陸羽西線中鶴岡線鶴岡～羽前大山間開通(羽前大山駅開設) " 酒田線酒田～遊佐間開通(本楯、遊佐の各駅開設)
9. 7.20	" " 遊佐～吹浦間開通(吹浦駅開設)
10.11.15	" " 吹浦～象潟間開通